

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.50

日時	2013年10月27日
行脚先	西岸寺
住所	兵庫県加西市北条町（播磨国）
行事名	北条の宿はくらんかい

特徴

後藤又兵衛の甥が僧となった寺です。
後藤又兵衛の妹は神吉城主に嫁ぎましたが、織田信忠軍による神吉城の戦いで落城。
当時5歳だった子、房太郎は逃れ、後に仏門に入り、この西岸寺の第12世の僧となったと伝えられています。
加西市は、後藤又兵衛の出生地と伝えられており、末裔の方や縁の品が数多く残っています。

黒田官兵衛との関わり

後藤又兵衛（後藤基次）は「黒田二十四騎」「黒田八虎」「大坂城五人衆」に数えられる程の豪傑であり、黒田官兵衛に長く仕えておりました。
後藤又兵衛は永禄3年(1560年)播州で生まれました。父基国は同じ播磨の国で、三木城主別所氏の家臣で誠実果敢の重将でしたが、又兵衛がまだ少年の頃若くして自刃しました。父の遺言により、同輩の「小寺官兵衛」（後の黒田官兵衛）に仕えて心身を鍛え、その心の豪胆さと剣槍の練術により名実共に天下に聞こえた勇将となりました。
天正15年3月(1587年)豊臣秀吉の九州征伐の際、第一鋒の黒田官兵衛について南下し、黒田氏が中津に入封して国内の土豪を鎮定するとき、城井谷の剛将宇都宮鎮房を降伏させた功労が大きかったと言われています。その後、黒田官兵衛、長政父子が筑前博多(福岡)へ入封すると、黒田二十四騎の猛将として1万6千石を与えられて大隈城主となりました。
諸説ありますが、黒田長政とは確執があったと言われております。

記録

